

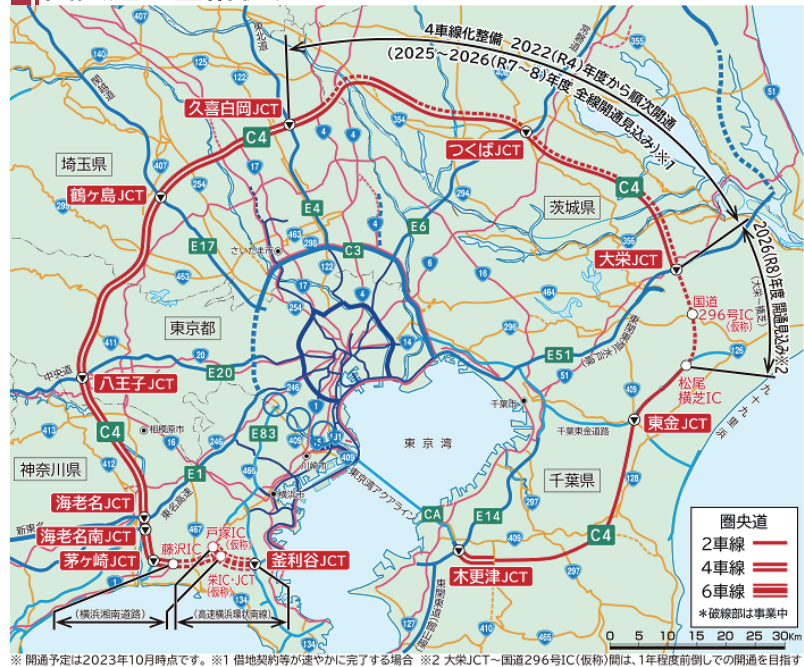
生産性を向上する道路ネットワーク

豊かで快適な暮らしを支える道路ネットワークの整備を進めています。

圏央道

首都圏中央連絡自動車道(圏央道)は、都心から半径約40～60kmの位置に計画され、3環状道路の一番外側に位置する延長約300kmの高規格幹線道路です。圏央道は、都心から延びる放射状の道路を環状につなぐ道路で、都心部の通過交通の抑制と流入する交通を分散し、渋滞の緩和による走行時間の短縮や周辺地域の環境改善効果など、多くの役割を担います。

圏央道の整備状況



重要物流道路の概要

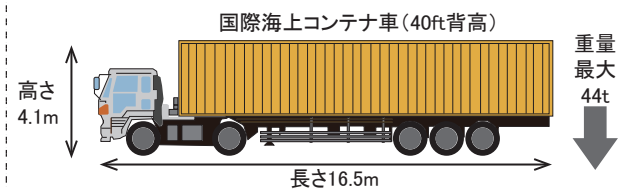
○物流の更なる円滑化等を図るため、物流の観点から重要な道路を「重要物流道路」として国土交通大臣が指定し、機能強化を推進

<重要物流道路指定の効果>

(物流を取り巻く課題)
物流は、生活や経済活動を支える必要不可欠なものであり、ドライバー不足等の課題に対し、トラック大型化への対応等の生産性の向上が急務。

2018年道路法改正により、重要物流道路制度を創設

- 道路構造の基準を国際海上コンテナ車対応に引上げ
- 構造上支障のない区間は、国際海上コンテナ車の特車許可不要
- 地方自治体事業は個別補助制度も活用して支援



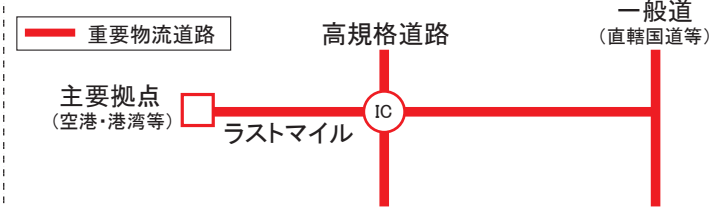
(参考)道路構造の基準

	自専道等	一般道
長さ	16.5m	12m
幅	2.5m	2.5m
高さ	3.8m	3.8m
前端オーバーハング	1.3m	1.5m
軸距	前軸距 4m 後軸距 9m	6.5m
後端オーバーハング	2.2m	4m
最小回転半径	12m	12m

※「自専道等」は第1種、第2種、第3種第1級、第4種第1級の道路で、「一般道」はそれ以外の道路。

重要物流道路に指定

<ネットワークのイメージ>



<指定状況(2024.4.1)>

候補路線 (対象:高規格道路)	380路線
優先区間の検討等	
計画区間 (対象:高規格道路)	95区間
概略ルート・構造の検討 都市計画・環境アセスメント等	
事業区間 (対象:全ての道路)	約2,800km
用地買収・工事等	
供用区間 (対象:全ての道路)	約36,000km

神奈川県内の圏央道

4つの機能(経済のみち、くらしのみち、命のみち、歴史・文化のみち)をもつ圏央道の整備を進めます。

神奈川県内の圏央道については、さがみ縦貫道路・高速横浜環状南線・横浜湘南道路の3路線で構成され、中央自動車道・東名高速道路や整備が進められている新東名高速道路と東京湾岸地域等との連携強化を図る自動車専用道路です。

圏央道の開通により、広域的な高速道路ネットワークが形成されると共に、国際競争力と成長を支える道路として、沿線の企業立地等による地域産業の活性化や、広域的な観光交流の実現による新たな観光需要が期待されます。

また、国際コンテナ戦略港湾である京浜港(東京港、川崎港、横浜港)や羽田空港(国際空港)を支えるネットワークが構築されることにより、物流の効率化にも貢献します。

なお、さがみ縦貫道路については、平成27年3月8日に全線開通し、現在高速横浜環状南線及び横浜湘南道路の整備を進めています。

神奈川県内の圏央道の整備状況



※ 事業中区間のIC・JCT名称には仮称含む。